

令和2年度 第1回小牧市夢にチャレンジ審査委員会
議事要旨

| | |
|--------|--|
| 《日 時》 | 令和2年7月21日（火）午後2時～午後3時30分 |
| 《場 所》 | 小牧市役所 301会議室 |
| 《議 題》 | (1) 令和2年度第1回募集について (2) 夢にチャレンジ助成金支給事業制度変更について (3) その他 |
| 《出席者》 | 委 員：多川委員、伊藤（敬）委員、林委員、鍛冶屋委員、 伊藤（加）委員 事務局：櫻井こども未来部次長、舟橋青少年育成指導員、濱島 |
| 《傍聴者》 | 1名 |
| 《会議経過》 | 以下のとおり |

1 あいさつ

〔委員長〕新型コロナウイルスの影響により、前回の委員会にて令和2年4月からの募集の中止を決定しました。感染症拡大防止・学びや活動の機会どちらも大切であり、線引きが難しいと感じています。この新型コロナウイルス感染症の影響がいつまで続くかわからず、一度決めたことも感染状況によって覆ることもあるため、状況に応じてその都度話し合うことが大切だと思っています。これまでの社会の価値観が変化している中、この事業についても話し合いをしていきたいと思えます。本日はこのような状況ですが、忌憚のない意見をいただければと思います。

2 委員・事務局紹介

《委員・事務局自己紹介》

3 実績報告

(1) 匂坂 実佳「ドイツで音楽を学ぶ」

《実績報告、質疑応答》

4 議題

(1) 令和2年度第1回募集について

○事務局より、資料P.4～8に基づき説明。

- ・募集の有無、募集内容について説明。
- ・募集有の場合、令和2年8月3日（月）～9月4日（金）の期間で募集し、

9月27日（日）にプレゼンテーションを行う。

- ・応募資格・対象者等、基本的に例年通りだが、外務省が発出している感染症危険レベルで全世界が不要不急の渡航を控えるレベル2以上に該当しているため、海外渡航を除くと活動内容に制限を設けたい。
- ・4月以降、市民からの問い合わせが2件あったこと、国内での活動は実施可能であることから、今年度募集を行いたい。

○質疑応答、意見等

- ・今年の募集に関する問い合わせはどのようなものだったか。
→1件はメール、1件は来庁の上での問い合わせであり、いずれも実施の有無のみの問い合わせだった。
- ・現在の東京のように感染が拡大している地域でのチャレンジ申請や、国内での移動制限がかかった場合どのような対応をするのか。
→感染症の状況は実際チャレンジするタイミングでないとわからない。感染症の状況によって予定していた場所でのチャレンジが難しくなった場合、同じ内容が別の場所のできるのであれば、本人からの申請をもらった上計画変更は認めていきたい。
- ・感染症の状況によってチャレンジが途中でできなくなってしまった場合、助成の対象とするのか。
→過去にも自分で設定した中間目標に届かずチャレンジを終了した実例がある。最終的な目標を達成していなくても、チャレンジの過程でかかった費用に対して支給を行いたい。
- ・今年度は外に出る活動だけでなく、自宅でWebを活用した活動を行う場合もあると思う。
- ・現在備品は対象外となっているが、半額位補助することは検討してもよいのではないか。
→他の活動でも今後使うことができるパソコンに対する補助は難しい。作曲にチャレンジしたい方が使う音楽ソフトのように、夢にチャレンジするための費用であれば補助対象として認めたい。
- ・補助対象経費の考え方の変更は今回に限ったものか。
→今後も同様と考えたい。
- ・TV会議による語学研修に係る費用は対象経費として認めてよいか。
→対象経費のうち負担金の中にある、「語学研修の受講費用」に該当する。

（2）夢にチャレンジ助成金支給事業制度変更について

○事務局より、P.9、当日配布資料に基づき説明。

- ・夢にチャレンジ助成金、海外留学奨学金は一本化せず、それぞれの制度として検討を行っていく。

- ・他市同様制度との比較、制度に関するアンケート、各種委員会でいただいた意見を基に、次回委員会にて制度変更案を提示する。

○質疑応答、意見等

- ・成果発表を広く行う場があると認知度があがると思う。
 - ・募集開始から締切までの期間が短い、単年度での事業実施を考えると変更が難しいと思う。
 - ・募集期間中だけでなく、いつでもHP等に掲載していると情報にアクセスしやすいのではないか。
 - ・周知方法を改めて確認したい。
- 近年は、募集期間中に広報・HP掲載、近隣の高校・大学へのチラシ配布。
- ・こどもが本当にチャレンジしようとしたら、GWあたりに決定し、夏休みを活用できるようにするとよいのではないか。
 - ・大学生だと春休みも活用できるが、現在のスケジュールでは長期休暇が活用できない。
- 予めお金を支給する概算払いだと年度内精算が必要である。財政当局と調整し、議会で翌年支払いの債務負担の了承を得れば、3月に支給決定し、4月に支払いを行い、その年度で精算ということは可能。
- ・中学生から「夢」を募集し、各学校1人ずつプレゼンをしてもらい、夢に役立ててもらうために少額支給を行えば、対象年齢前から制度に興味を持ってもらえるのではないか。
 - ・中学生だと、思いつきでアイデアを出せても、突き詰めて考えたり成果を求めるたりすることは難しい。学校の先生の協力を仰ぎ、いい夢の子には景品として図書カードを渡す等はできるのではないか。
 - ・過去の助成金支給者へ実施していて気になったことや困ったことのアンケートを行ってはどうか。
- 個々の環境の変化により、過去の助成金支給者全員へのアンケートは困難。実施するとしても対象者になる。

(3) その他

特になし

5 その他

(1) 今後の予定

- ・令和2年9月27日(日)に公開プレゼンテーション・審査委員会開催。
公開プレゼンテーションがない場合は、審査委員会のみ開催。
- ・令和3年2月に審査委員会開催(来年度事業計画・スケジュール等)。
次回9月の委員会で日程調整を行う。